

総合周産期母子医療センター新生児科

総括：総入院数は366人で2021年度より6名減少したが、コロナ禍前の平均入院数382人/年に戻りつつある。超早産児の入院数には大きな変化がなく、埼玉県内で出生した超早産児・重症児・先天性心疾患・外科系疾患時の多くが当センターに入院していることがわかり、地域周産期施設との機能分担および連携ができています。在胎期間27週未満、出生体重1000g未満の超早産児の生存率は非常に高く(生存率90.7%)、長期予後も良好で総合周産期母子医療センターとしてレベルの高い新生児医療提供ができています。

入院内訳：2022年度総入院数は366人(前年比-2.0%)でした。入院の内訳は、在胎週数が未熟で出生体重の小さい超低出生体重児(出生体重1000g未満)が41人(前年度より-6人)、極低出生体重児(出生体重1000-1500g未満)が37名(前年度より+15人)、低出生体重児(出生体重1500-2500g未満)が103名(前年度より-2人)で、超・極低出生体重児は合わせて総入院数の21.3%(前年度より+18.3%)でした。在胎期間別内訳は22-24週:14名、25-27週:25名、28-30週:30名、31-33週:39名、34-36週:48名、37週以上:210名でした。重症新生児仮死や遷延性肺高血圧症、胎便吸引症候群、重症新生児仮死、胎児診断されていた先天性心疾患児、先天性外科疾患児などの出生体重2500g以上の児は185名で総入院数の50.5%でした。

入院経路：さいたま赤十字病院産科からの入院は125件で、総入院数の41.7%であり、分娩立会い件数は123件で総入院数の41.0%であった。院外からの新生児搬送入院は175件で、新生児ドクターカーによる院外新生児搬送件数は84件であった。

胎児診断：埼玉県遠隔胎児診断支援システムを活用し、先天性心疾患・先天性外科疾患が胎児診断され当センターNICUに入院した児は104例(前年度より+28例)であった。NICU入院後に治療介入が必要だった先天性心疾患症例は72例(前年度より-8例)、外科系疾患症例は72例(前年度より-2例)で埼玉県内全域の総合・地域周産期産科および新生児施設から紹介されていた。

特殊治療：人工換気療法157件(入院患児の42.9%)、サーファクタント補充療法54件、一酸化窒素吸入療法15件、低体温療法12件、血液透析1件、ECMO1件であった。

死亡率：死亡患児数は11名で剖検率は54.5%であり、染色体異常・奇形症候群などで死亡したのは8名(染色体異常2名、先天性横隔膜ヘルニア1名、奇形症候群:5名)でした。

死亡率:在胎期間別22-24w;7.1%(1/14)、25-27w;8.0(2/25):出生体重別~499g;40.0(2/5)、500-999g;0.0%(0/36)、1000-1499g;5.4%(2/37)。

剖検率：54.5%

2022年度在籍新生児科医(15名):清水正樹(総合周産期母子医療センター長、新生児科科長)、川畑 建(副部長)、菅野雅美(副部長、NICU病棟長)、西村 力、采元 純(GCU病棟長)、鈴木ちひろ、閑野将行、閑野知佳、今西利之、栗田早織、角谷和歌子、長尾江里菜、斎藤光里、廣中 優、森未奈子、若松宏昌、常勤的非常勤(4名)

(清水 正樹)

出生体重別入院数

入院数	出生体重						合計
	～499g	500～999g	1000～1499g	1500～1999g	2000～2499g	2500g～	
2022	5	36	37	46	57	185	366
2021	6	41	22	41	64	198	372
2020	4	38	24	24	45	165	300
2019	2	39	32	54	60	206	393
2018	5	32	44	53	48	149	331
2017	1	53	36	57	60	217	424

在胎期間別入院数

入院数	在胎期間						合計
	22-24W	25-27W	28-30W	31-33W	34-36W	37W～	
2022	14	25	30	39	48	210	366
2021	24	21	15	33	50	229	372
2020	15	22	20	27	41	175	300
2019	12	27	23	37	57	237	393
2018	15	19	24	54	59	160	331
2017	19	24	34	55	53	239	424

出生体重別・在胎期間別死亡率（2022年度）

2022年度	～499g	500～999g	1000～1499g	1500～1999g	2000～2499g	2500g～	合計
入院数	5	36	37	46	57	185	366
死亡数	2	0	2	1	2	4	11
死亡率	40.0%	0.0%	5.4%	2.2%	3.5%	2.2%	3.0%

2022年度	22-24W	25-27W	28-30W	31-33W	34-36W	37W～	合計
入院数	14	25	30	39	48	210	366
死亡数	1	2	2	1	1	4	11
死亡率	7.1%	8.0%	6.7%	2.6%	2.1%	1.9%	3.0%

超低出生体重（出生体重 1000g 未満）の主な治療および退院時予後（2022年度）

在胎週数	n	院外出生	CLD ステロイド	CLD36	PDA手術	晩期 循環不全	IVH1-2	IVH3-4	PVL	敗血症	壊死性腸炎	特発性消化 管穿孔	難聴	ROP治療	HOT導入
22-23w	9	0	9	6	1	1	2	2	1	2	1	0	0	2	1
24-25w	10	1	4	4	1	0	1	3	2	0	0	0	1	1	1
26-27w	10	1	3	7	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0
28-30w	9	0	1	4	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	1
31w-	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

主な治療

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
人工呼吸換気	182	157	170	105	177	157
STA補充療法	75	59	50	44	63	54
NO吸入療法	16	16	14	8	15	15
脳低体温療法	13	13	18	12	15	12
血液透析	5	3	3	1	1	1
ECMO	1	1	1	1	1	1

主な先天性心疾患	2022	主な先天性外科疾患	2022
大血管転位症	6	消化管閉鎖/回転異常	23
両大血管右室起始症	7	横隔膜ヘルニア	6
大動脈縮窄症/大動脈離断	13	臍帯ヘルニア	2
総動脈幹症	0	CCAM/CPAM/肺分画症	6
左心低形成	4	総排泄腔遺残	0
単心室症	5	気道閉鎖	0
大動脈弁閉鎖/狭窄	2	髄膜瘤/二分脊椎	8
肺動脈弁閉鎖/狭窄	11	脳腫瘍/脳奇形	8
三尖弁閉鎖	4	尿路奇形	13
総肺静脈還流異常	3	腫瘍/血管腫	0
Ebstein奇形	0	リンパ管疾患	0
その他	17	その他	6

剖検率

剖検率	
2022	54.50%
2021	50.0%
2020	85.7%
2019	87.5%
2018	58.3%
2017	25.0%

主な胎児疾患診断例

	2019	2020	2021
胎児診断例	69	56	76
心疾患	35	32	69
外科系疾患	21	12	49
その他	15	12	20
(重複あり)			